

池良レンズ製作所

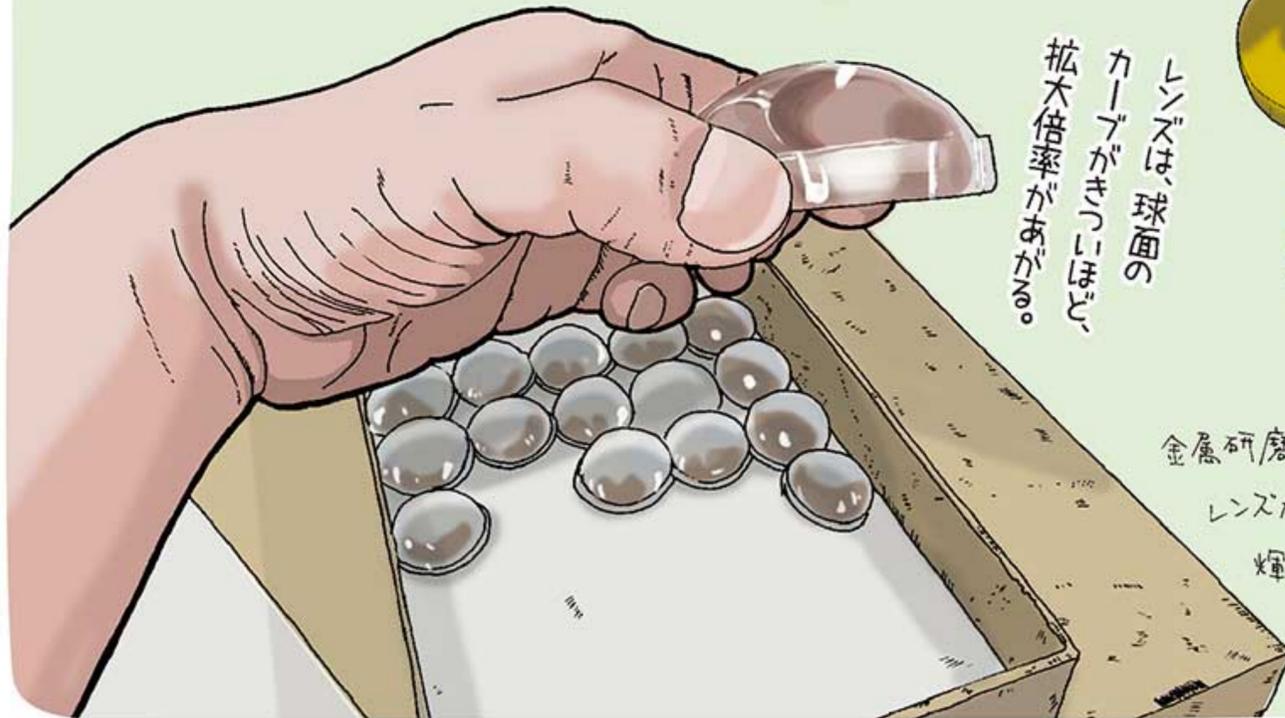
めがねや拡大鏡などのレンズの製作、 産業・研究に係わる硝材の加工を手掛けています

親がガラスレンズ製造をやっていたんです。家業は兄が継いだのですが、私も技術を受け継ぎ別の場所でレンズ製作を始めました。生野はめがねレンズ発祥の地で、めがね用レンズの製造会社は多かったです。だから、うちはめがねレンズだけでなく虫めがねなどの拡大鏡レンズの製造も行うことにしました。

レンズはガラスを研磨して作るのですが、その研磨技術をもとに、特殊ステンレス鋼という金属の研磨技術を開発。バブル終盤の1980年代後半には、日本に韓国製の安価なプラスチック

クレンズが入ってきたため、それに対抗し、プラスチック製のレンズ製造も始めました。プラスチックレンズは研磨ではなく、金型に樹脂を注入し成型するという手法で製造します。成型に必要な金型が、いわば財産と言えます。

レンズ製造は同業が次々と廃業するように、正直、厳しい状況ではあります。それでも、なんとかやってこれたのは、いかに早く安くできるかというお客様視点を大切にしたことですかね。さらに、プラスチックレンズに早い段階から対応してきたからだと思います。



レンズは、球面のカーブがきつければ、拡大倍率が上がる。



金属研磨による鏡面仕上げでは、レンズがまるで鏡のようにきれいに輝きます。そうすることで、小さな傷も目立たず、透過性の高いレンズに仕上げることができるんです。

代表 池田良和さん

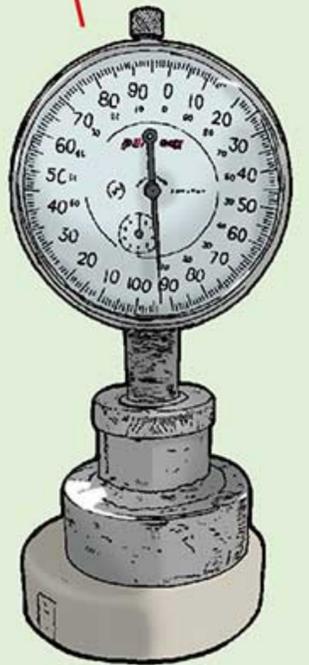


めがねレンズと言えは、福井県の鯖江と言われるけれど、鯖江はフレームが主流。レンズ発祥は生野だし、レンズがないと見るのことができないんですよ。



もともとサラリーマンでしたが、6年前からこの世界へ。奥が深く、まだまだ技術が足りません。特に、きれいなカーブ曲面をつくるのがむずかしいです。

産業・研究に関わる硝材の加工を手がけている。



成型やコート技術、表面加工など 高い技術で高性能のレンズを製造

池良レンズ製作所は、主に虫めがねのレンズを中心に、プラスチック製・ガラス製のレンズを製造している。昨今、虫めがねは100円ショップで販売されるなど安価なものも出回っているが、同社が製造するレンズはゆがみやひずみの少ない高精度のもの。中でも、レンズが大きくなると厚くなり、見え方にゆがみが出やすくなる。しかし、同社の高い成型技術であれば、大きなレンズでもゆがみのない高精度のレンズを提供できる。

さらに、同社の高精度のレンズに欠かせないのが、プラスチックレンズへの傷防止用クリアハードコート技術だ。レンズのもととなる素材を成型しただけでは、かすかな傷でも目立ってしまう。そこで、コーティングという表面加工の技術にも力を入れている。さらに、プラスチックレンズを金属で研磨し、光沢のある鏡面仕上げも可能にしている。非球面といって、平面でも曲面でもない難しい形のレンズへの対応も行うなど、次々と新しい技術への対応をはかっている。

現在、ガラスレンズは少量の注文に対応しているが、量産も可能だ。レンズ市場は縮小傾向と言われるものの、創業時から変わらない生野でよりクリアなレンズをこれからも作り続ける。

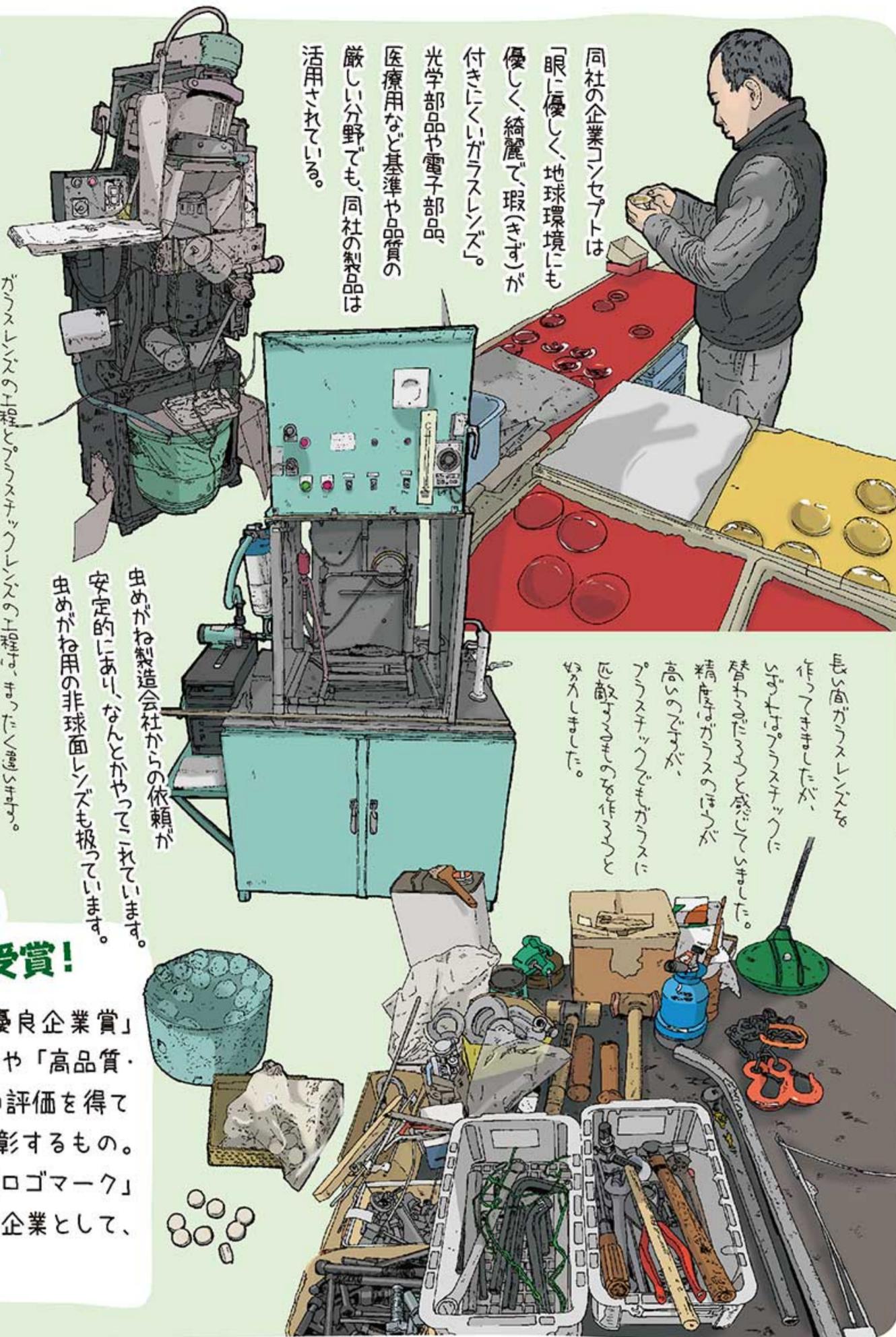
池良レンズ製作所

<https://ikeyoshi.localinfo.jp/>
〒544-0012 大阪市生野区巽西3-11-6
TEL 06-6757-4527 FAX 06-6757-0328

事業内容/ガラスレンズ、プラスチックレンズの製作・加工

同社の企業コンセプトは「眼に優しく、地球環境にも優しく、綺麗で、瑕(きず)が付きにくいガラスレンズ」。光学部品や電子部品、医療用など基準や品質の厳しい分野でも、同社の製品は活用されている。

長いガラスレンズを作るのは大変ですが、プラスチックはプラスチックに替わるとなると気になっていました。精度はガラスのほうが高いんですが、プラスチックでもガラスに匹敵するものを作ろうと努めました。



ガラスレンズの工程とプラスチックレンズの工程はまったく違います。ガラスは熟練の職人が研磨して仕上げます。プラスチックは機械で加工して、研磨機で仕上げます。職人の手も回さず厳しくチェックして出荷。

虫めがね製造会社からの依頼が安定的にあり、なんとかやってこれています。虫めがね用の非球面レンズも扱っています。

これまで様々なプラスチックレンズをつくる中で、レンズ成形に必要な金型も数えきれないほど作ってきた。それも、うちの財産ですわ。



大阪ものづくり 優良企業賞を受賞!

我が社の 自慢

「大阪ものづくり優良企業賞」とは、「高度な技術力」や「高品質・低コスト・短納期」などを誇り、高い評価を得ている中小企業に対して、大阪府が表彰するもの。表彰された企業は「匠企業」として「匠ロゴマーク」を与えられる。同社は2017年度の受賞企業として、技術の高さを認められた。